

港合同

全国金属機械労働組合 港合同
 大阪市港区南市岡 3 6
 TEL 06 6583 4858
 FAX 06 6583 4600

南大阪平和人権連帯会議沖縄現地学習会に参加して

辺野古新基地建設阻止！

沖縄闘争に連帯しよう！

六月二日から四日までの三日間、南大阪平和人権連帯会議が主催する沖縄現地学習会に参加させていただきました。

二日の朝、伊丹空港南ターミナルANAの団体カウンター周辺に集合し、団長である樋口議長、中村事務局長以下、総勢十六名（女性三名）の参加で始まりました。私達と同じ飛行機に修学旅行生が乗っていて機内では離陸、上昇などで歓声があり何事も楽しい時期なんだなあと改めて思いま

した。

一〇時二十三分に那覇空港に到着しました。外は週間天気予報のとおり雨で湿気が高く、過ごしにくさを感じました。那覇空港で平和ガイドの本村ふみよさんとバスガイド照屋さんの出迎えを受けバスに乗り込みました。空港の周囲には米軍施設、自衛隊施設があり、湾岸戦争の際には種々の軍艦、原子力潜水艦等の出入りがあった那覇軍港など基地の島を感じ、那覇市内を見ながら辺野古

キャンプシユワブゲート前、辺野古新基地建設に反対するテント村に向かいました。ゲート前では車中から見ることで、断幕や座り込みをしている人の姿や機動隊のバスや隊員の姿がありました。後に午前中に工事車両用



到着してすぐの昼食「沖縄そば定食」

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

ゲート前で新基地建設に反対し座り込みに参加して、抗議中のもみ合いの中で転倒してケガをした人がいると聞いて、沖繩の声を無視し暴力で排除する許しがたい行為だと思いました。大浦湾の海岸から辺野古新基地の工事予定区域と昨年の十二月、海上に墜ちたオスプレイの場所の説明を受けました。フロートで囲んだ中はクレーン船が仕事を進め、外では漁業権を売った地元漁師が一日五万円海上の警備をしているそうです。色々な形をとって住民同士を分断させて工事を進めていく国の姿を許してはならぬ

と思います。オスプレイ事故をめぐって政府や米軍は不時着と表現しているが、嘘とだまして沖繩の声を消そうとする国は許しがたいです。そこを後にして辺野古新基地建設阻止のテント村に移動しました。テント村の入り口には「勝つ方法はあきらめないこと」と看板があり、テント村の座り込み行動が当日四七九三日になっていました。テント村で座り込みをしている田中さんからテント村の闘いと護岸工事の進捗状況と海の生態について話されました。その後キャンプシユワブと地元を隔てるフェン

スまで向かいました。日本側のフェンスには抗議文の横断幕が沢山ありました。労組が先頭に立つて、埋め立ての工事の強行を許さず基地建設反対をする闘いに連帯していかなければなりません。国が莫大なお金をつぎこみ、今後、辺野古新基地を自衛隊が共に使用する日があるのではないかと、戦争ということが身近に感じました。



普天間基地のオスプレイ

次に宜野湾市に向かい嘉数高台公園の世界平和を願う地球儀をイメージした展望台から那覇市や普天間基地を見ました。宜野湾市の真ん中をしめ、周りには民家があり、基地の老朽化、オスプレイ配備がされ、墜落炎上したら、大惨事になる危険と隣り合わせで生活を余儀なくされています。基地があることでその住民の生活が制限させられ危険があるなら場所が変わってもどこにもいらないと思いました。嘉数高台は米軍が初めて本格的な反撃に合った日本軍

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

の防御拠点で米軍は、地形を利用して戦う日本軍によって二週間余もこの地に釘付けされたそうです。その後、戦闘で使われたトーチカ跡、陣地豪、戦闘を物語る弾痕の堀、沖縄戦で亡くなった嘉数住民の嘉数の塔、戦死した京都出身者の京都の塔に行き黙祷をしました。

そして二〇〇四年八月に米軍のヘリコプターが墜落した沖縄国際大学の墜落現場に行きました。燃え残った一本の木とヘリの墜落で被害を受けた壁が、今も残されています。ヘリコプターの後部が本館会計課横に激突し、学生や民間人に負傷者が出なかったものの、近隣のマンションや保育園にヘリの部品が飛散したそうです。一歩間違えば大惨事になるところで基地は必要ないと改めて思いました。一日目の予定が終了し那覇市内宿泊先のホテルに向かいました。その後夕食を兼ねた交流会で自己紹介やこの学習会の思いなどを語り合いました。

二日目は、晴れで平和ガイドが本村光雄さんに代わり、ホテルを出発して、道の駅嘉手納に向かいました。屋上展望場から嘉手納空軍基地と嘉手納弾薬庫を見ながら反戦地主の真栄田玄徳さんから極東最大である嘉手納空軍基地を含めた沖縄米軍基地の現状と役割それに付随する日米安全保障条約、闘いなどを話してもらいました。その後三階にある学習展示室で嘉手納基地の歴史を学びました。



道の駅嘉手納で説明を聞く

次に読谷村役場に建つ憲法九条の碑に向かいました。沖縄には憲法九条の碑が六か所もあり、その一つがここだそうです。碑の中ほどに碑文があり日本国憲法第九条戦争の放棄の条文がありました。碑は住民が後世に平和の願いを伝えようとしていると感じました。

次に彫刻家の金城実さんのアトリエを訪問しました。作品の思いを一つ一つ説明をしていただき、又自分の生い立ちなどを話していただきました。人には誇りがあり、その人の怒りを体現して歴史を学んでほしいという気持ちで彫っているそうです。貴重な話しを聞かせていただき良かったです。



金城さんのアトリエで懇親

その後全体で金城さんと記念写真を撮りました。

次にチビチリガマに向かいました。知花昌一さんから地元で開催された沖縄国体のソフトボール会場で掲揚されていた日の丸が引きずり下ろされ燃やされた話があり、後に報復としてチビチリガマも被害をうけたそう

です。そして一九四五年四月一日の米軍上陸とガマに逃げ込んだ住民は極限の精神状態に追い込まれガマは地獄のような惨状となる背景の説明を受けました。その後ガマに入ることになりました。ガマの入り口正面右手に平和の像があり金城さんと住民が協力して建てたそうです。左手に碑文がありました。中は懐中電灯の灯りでも暗くとても人が避難する場所ではありません。当時の人骨が残っていたり、避難した人が使っていたお茶碗、コンパクト、やかん、味噌壺、一升瓶などが人々の生活の跡を物語ってい

ました。そして楚辺通信跡地の北側にあるシムクガマに向かいました。こちらのガマは住民約千人が避難しほぼ全員が生き延びることができたそうです。米軍が沖縄本島に上陸してから同じ集落にあるチビチリガマでは集団自決による多くの犠牲者ができました。二つのガマの明暗を分けたものは戦時教育であったそうです。教育というものは人を変えてしまう、それだけ大切なものだと思ひました。二日目の予定も終わり宿に戻りました。その後夕食を兼ねて本村さんの所属している「語りつく沖縄平和の会」

の皆さんと交流を深めました。三日目は曇りで、ホテルを出発し、南風原文化センターに向かいました。こちらでは沖縄戦の映画を鑑賞し、沖縄陸軍病院豪の当時の様子が再現され体験でき、とても生々しく感じ、当時の人々の暮らしなどを紹介し、沖縄戦の動きを広く理解できるようになっていました。その後系数豪に向かいました。系数住民の避難指定場所や日本軍の地下陣地、倉庫としても使用され戦場が南下するにつれ、南風原陸軍病院の分室となり、ひめゆり学徒隊が看護活動を行って

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

いたそうです。米軍の火炎放射攻撃などにより多数の住民の死者を出し、現在も火炎放射の黒焦げ跡、及び爆風の跡が残されています。又多くの負傷兵が置き去りにされ、故郷を想い家族の名前を呼び息絶えたそうです。七二年前の叫び声、泣き声、怒鳴り声も本当に聞こえそつでした。

次に平和記念公園に向かいました。到着後、日本軍に強制され軍夫として沖縄戦で犠牲となった韓国人の慰霊塔。韓国から取り寄せた石が石塚の正面に並び、石塚手前広場の矢印は故郷の方向を示しているそうです。この碑文には強烈な意味合いがあり戦争について、私達に問いかけていると思います。



平和の礎を見学

平和の広場にある平和の火に向かいました。火は沖縄戦最初の米軍の上陸地である座間味村阿嘉島において採取した火と被曝地広島市の平和の灯及び長崎市の誓いの火から分けていただいた火を合火し、灯されています。六月二十三日の慰霊の日などは円錐の先から勢いよく炎があがります。そして噴水の底には日本や東南アジア地域の地図が描かれていて、円の中心が沖縄で、中央から外へ外へと水が溢れ出してい

ます。この水は平和を表します。これは沖縄から世界に平和の波を発信するという願いが込められているそうです。そして平和の礎は、太平洋戦争、沖縄戦終結五〇周年記念事業の一環として、国籍、軍人、民間人を問わず全ての戦没者二四万人の氏名が刻まれており、現在もその数は増え続けています。又県内出身者は名前が分からなくても、名前前の分かつている方との続柄などを表示することで、名前は分からずともその方々が生きておられた証となるからだそうです。屏風状に並んだ刻銘碑は世界に向けて平和の波が広がるようにとの願いをデザインしています。沖縄戦の犠牲者の名前を敵味方の区別なく同じ場所に刻銘してあることが特徴だそうです。

次に敗戦が濃厚となり、後退していた軍司令部が最後に辿り着き、自然豪を利用した第三十二軍司令豪が置かれた摩文仁の丘に向かいました。摩文

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

仁の丘の頂上に行くとな
島司令官と長勇参謀長の
黎明の塔がありました。
そこから、景色を眺める
と戦争の歴史がこの地あつ
たのだと思い、改めて平
和の大切を感じました。

昼食後、看護要員とし
て戦場に動員され亡くなつ
ていったひめゆり学徒隊
の塔ひめゆりの塔と、塔
に隣接する併設のひめゆ
り資料館に向かいました。
ひめゆり学徒隊の犠牲
者の遺品やガス弾によつ
て多くの犠牲者がでた伊
原第三外科豪が実物大で
再現されて、学べる場と
なっています。生存者の
手記や証言映像を通して、
ひめゆり学徒隊の戦争体

験や沖縄で繰り広げられ
た地上戦がどれだけすさ
まじかったのか身に染み
て感じました。

その後、魂ばくの塔に
向かいました。戦後沖縄
で最初に建てられ、放置
されたままの遺骨を収骨
し、納めたのが魂ばくの
塔だそうです。そのため、
六月二十三日には多くの
人がここにくるそうです。
沖縄県民にとって戦後の
原点とも言える場所だそ
うです。ここで献花を捧
げ、黙祷をしました。

そこから少し歩き、米
須海岸に向かいました。
今では、県内有数のサー
フィンスポットです。当
時、この地は一番の激戦

地で日本軍も住民も追い
つめられて逃げ場を失い
陸、海、空からの攻撃を
受けて、敵弾にあたって
倒れ海岸には多くの死体
が浮かんでいたそうです。
想像を絶する、胸を締め
付けられる思いがしまし
た。これで三日間の日程
がすべて終わりました。

今回沖縄現地学習会で
学んだことは、命の大切
さと教育の大切さと、日
本が戦争に関わろうとし
ていることです。過去の
たくさん犠牲の上に成
り立って今の平和があり
ます。沖縄戦の歴史を学
び、人任せにするのでは
なく、一人一人が平和に
ついて真剣に考えて、声



交流会で挨拶

をあげて行動しなければい
けないと思いました。そ
の声に連帯していくのも、
労組の役目と思えました。
安倍政権が、憲法の改正
を予定している時に、沖
縄現地学習会に参加させ
ていただき、貴重な学習
をすることができました。
ありがとうございます。

昌一金属支部 N

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！